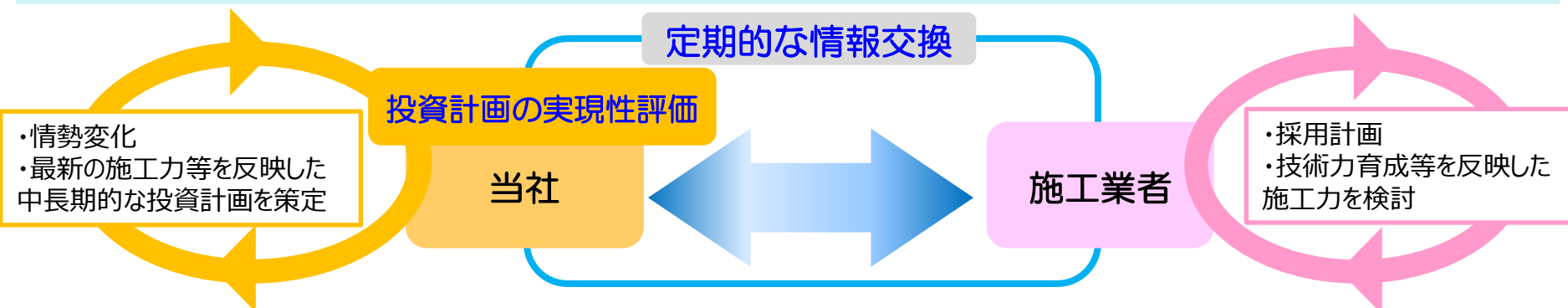


CAPEX(連系線・基幹系統,ローカル系統,配電系統) における投資量に対する施工力について

四国電力送配電株式会社

- 今後、高経年化設備の更新時期を迎える中、引き続き安定供給を実現するため、設備の劣化状況等に加えて施工力を勘案したうえで、実現可能な投資計画を策定しております。
- 具体的な施工力の確認方法については、“中長期的な計画”に関して地場業者等と定期的に情報交換を行うことなどにより、投資計画の実現性を評価しております。



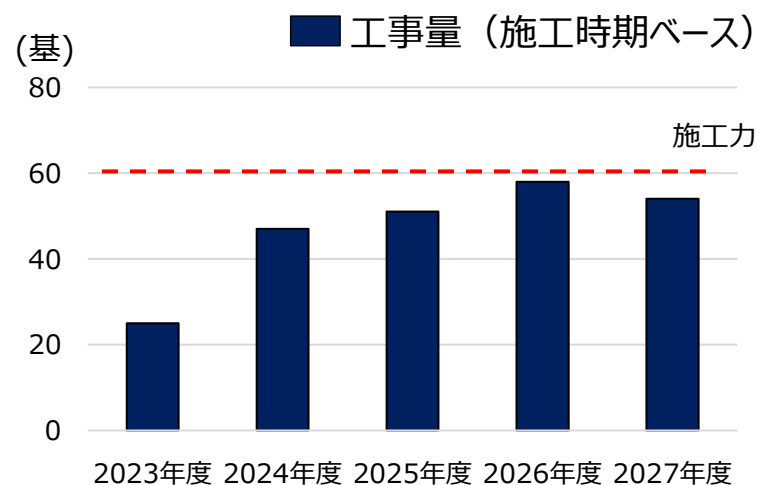
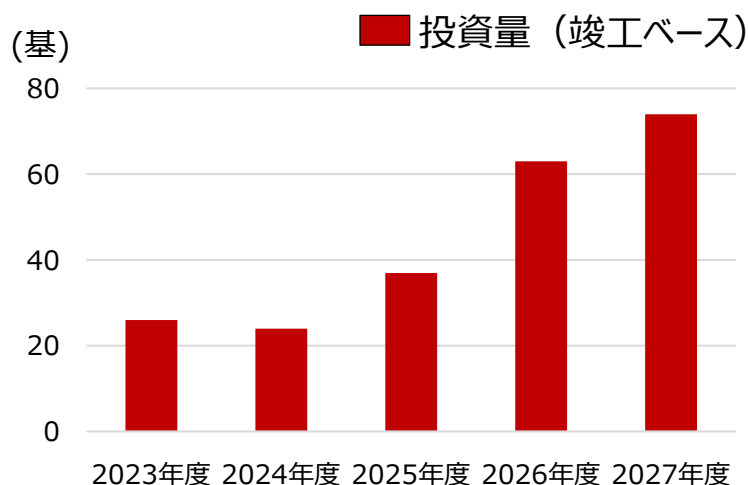
- 上述のとおり、投資量の実現性評価することで、施工力を確保できる見通しであります。今回、規制期間の投資量が、参照期間の投資量を超過している以下 4 設備について、施工力確保の考え方をご説明致します。

設備名	設備名	参照期間	年度最大実績	規制期間	年度最大計画	※
送電設備	<u>鉄塔</u>		<u>52基</u>		<u>74基</u>	—
	架空送電線		82km		70km	○
	<u>地中送電ケーブル</u>		<u>7km</u>		<u>12km</u>	—
変電設備	変圧器		13台		11台	○
	遮断器		41台		35台	○
配電設備	<u>コンクリート柱</u>		<u>14,449本</u>		<u>14,994本</u>	—
	配電線		3,532本		3,357本	○
	<u>地中配電ケーブル</u>		<u>12km</u>		<u>34km</u>	—
	柱上変圧器		24,114台		19,055台	○

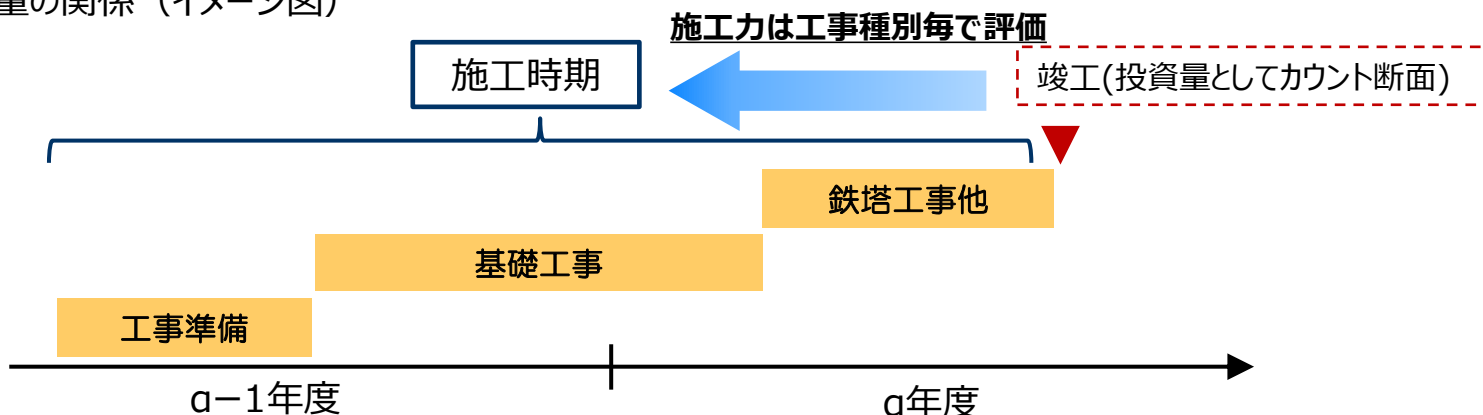
※「○」：最大過去実績の範囲内、「—」：最大過去実績の範囲外

- 鉄塔については、地場業者に対して中長期的な投資計画を提示することなどにより、施工力を確保できることを確認しております。
- なお、鉄塔工事については工期が長く工事が年度を跨ることもあることから、竣工年度以前に工事を実施する現地施工時期があるため、工事量(施工時期ベース)の中長期計画を併せて提示し、施工力確認を行っております。
- 地中送電ケーブルについては、過去最大実績が7kmに対し、規制期間の計画投資量は12kmと大幅な増加がないことに加え、地場業者等に施工力を確保できることを確認しております。

○施工力評価 鉄塔の規制期間における投資量と工事量の関係

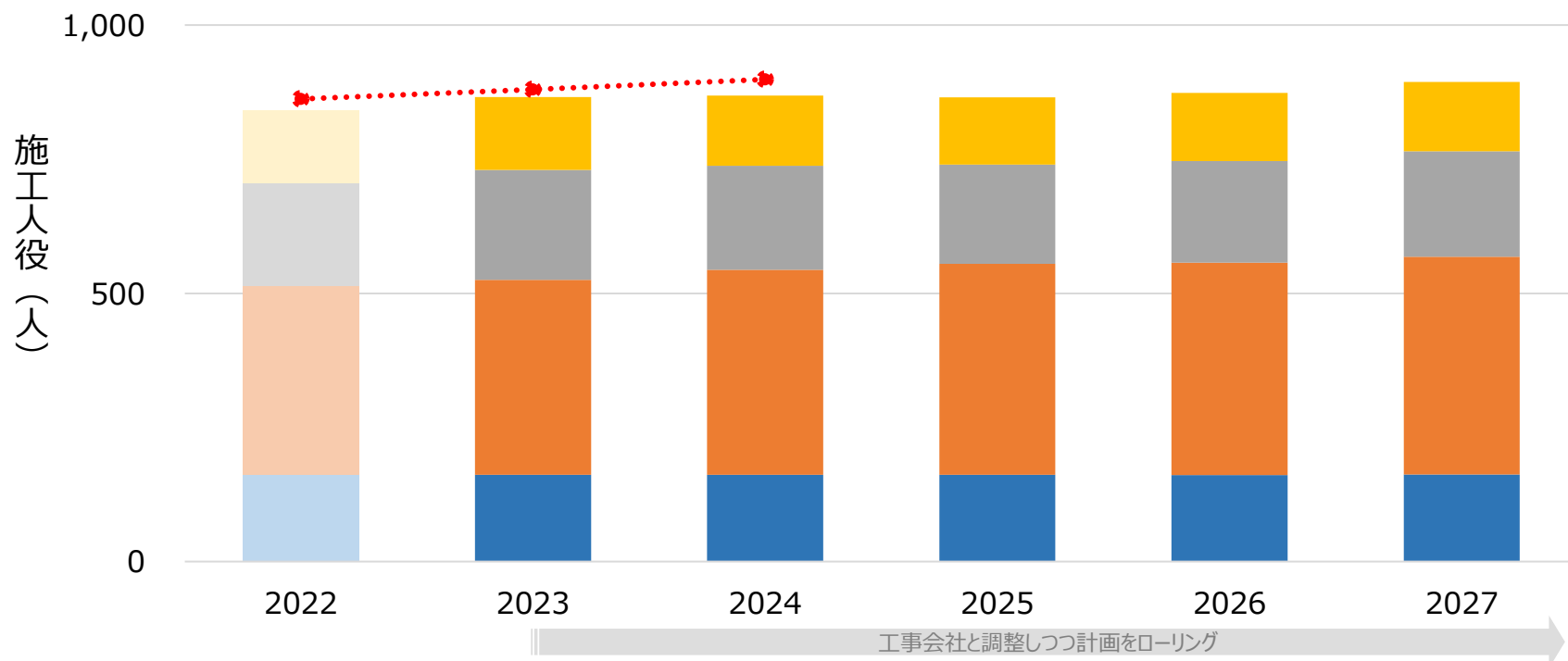


○投資量と工事量の関係 (イメージ図)



- 配電工事については、地場業者に対して中長期的な投資計画を提示することにより、施工力を確保できることを確認しております。
- なお、配電工事は、コンクリート柱をはじめ電線・ケーブル・柱上変圧器など全ての設備を配電電工職が施工することから、施工力の評価にあたっては、拡充・更新・修繕工事に係る全ての所要人役を積み上げ、地場業者に提示することで確認しております。

■ 拡充投資
 ■ 更新投資（主要設備）
 ■ 更新投資（その他）
 ■ 修繕費（巡視点検除）
 ●●●● 配電工事施工力



※施工力の見通しは2024年度まで記載しているが、2025年度以降も地場業者と情報交換を行ったうえで、当社にて施工実現性を確認済

- 今後、高経年設備の更新数量が増加傾向となる一方で、高所作業員をはじめとする工事従事者の高齢化などの課題があります。
- 今後とも施工力を確保していくため、送電線建設技術研究会四国支部などと一体となり、送配電事業者のイメージ・認知度の向上を図る活動を行っております。
- また、作業員の定着化に向けて、休日の確保に配慮した工事計画の立案(工事会社と協働し、工事計画の見直しを実施)、工事平準化、労働生産性の向上、労働環境の改善などに取組んでおります。

【イメージ・認知度の向上】

- ・送電工事業者とPRパンフレットを協同制作
- ・鉄塔カード作成
- ・配電工職の仕事内容・やりがいや魅力を纏めたワークガイドを作成

【生産性向上・労働環境改善】

- ・週休2日(4週8休)の工事計画策定
- ・長距離の山岳徒歩通勤を要する現場に乗用モノレール適用
- ・電動ファン内蔵上着(空調服)の導入

ワークガイド



鉄塔カード



PRパンフレット

